

# そよかせ

## 通信



2021年7月 No. 9

発行責任者

北本市議会議員

**金森すみ子**

連絡先 金森すみ子とあゆむ会

北本市東間 8-230-172

電話 048-542-8794

私の議員生活も2年が過ぎ、折り返しの3年目を迎えました。正副議長も改選となり、私も所属する常任委員会が変わり、再スタートしています。コロナ禍で中々自由に活動できない生活が続いていますが、気持ちを新たに努めて参ります。

ワクチン接種については、働く世代にもやっと身近なものになってきました。59～12歳の方のクーポン券(接種券)の配布は、7月末頃の予定です。実際の接種については、年齢の高い順からとなります。引き続き気を付けてお過ごしてください。



### 令和3年第2回北本市議会臨時会(4/22)が開催されました。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている「低所得の子育て世帯への生活支援特別給付金」など、早急に審議が必要と判断された市長提出議案4件が、承認・可決されました。

### 令和3年第3回北本市議会臨時会(5/24)が開催されました。

令和3～4年度の議長・副議長・監査委員、各議員の所属する常任委員会が改められました。私の所属は、総務文教常任委員会です。広報広聴委員も引き続き勤めていきます。

【 議長 工藤日出夫、 副議長 高橋伸治、 監査委員 保角美代 】

### 令和3年第2回北本市議会定例会(5/31～6/21)が開催されました。

市長提出議案は、条例改正 2 件、補正予算 2 件、人事案など 6 件でした。審議の結果、全て承認・可決されました。

### 障がい者医療費の窓口払いが撤廃されます (令和4年4月からの予定)

県と市町村では、障がいのある方とその家族の経済的負担を軽減するために、障がいのある方が医療機関を受診した際の支払いについて、援助をしています(重度心身障害者医療費制度)。北本市の場合は、①受診した時に一旦ご自身で医療費を支払う、②その内容を月毎に市に申請手続きをする、③受診から2か月程後に、指定した金融機関口座に支払った医療費が戻ってくる、という方式(償還払い)を採用していました。

令和4年4月からは、市内医療機関での受診時の医療費の支払いは、基本的に無くなる予定です。

こちらについては、北本市は近隣の市・町から遅れをとっており、福祉分野の課題となっていました。議会でも、毎年の様に一般質問に取り上げられてきましたので、やっと市が決断してくれたと安堵しました。この「そよかせNo.9」最終ページの一般質問の欄もご覧ください。

## 令和3年度一般会計予算は、総額 215億 3,388 万円に

9,979万円が追加補正されました。

主な内容は、新型コロナウイルス感染症対策に関連する事業です。

### < 歳出の主なもの >

#### ▶ 小・中学校の手洗い場の水栓ハンドルをレバー式へ改修 811万円

小・中学校の手洗い場の水栓ハンドルは回転式のものがほとんどで、使用の際には指で触れる必要があります。児童・生徒間での手指を介しての感染や、家庭へのウィルスの持ち込みを防止する為に、水栓ハンドルをレバー式に交換します。

( 7,000 円/1ヶ所で全体数の80%を改修する予定です。小学校731ヶ所、中学校408ヶ所。 )



こちらについては、前回の定例会で、私が一般質問に取り上げていました。タイミング良く対応してもらえました。水栓の開閉を手の甲や肘などで行うことで、感染の危険性を軽減できます。

#### ▶ 路線バスの運行を維持するための支援 210 万円

今も尚、外出自粛による利用者減少の影響を受けている 7 路線に、各30万円を支援します。

#### ▶ 市役所に事務システムを導入 2,376 万円

職員の休暇申請等は、現在は複写の申請用紙に手書きして、集計も手作業とのことです。これらを電子化することで、職員同士のコロナ感染防止やテレワークの利用促進を図ります。又、ペーパーレス化や自動集計による業務の省力化効率化にも繋がります。

職員の余力が生まれることで、市民サービスが向上されることを期待したいと思います。

#### ▶ 避難所の物品を充実させます 2,014 万円

14ヶ所の各広域避難所に、充電機2台(水を入れると発電、携帯電話30台分の電力)、足踏み式手洗い器 1 台、浄水器 1 台、を設置します。



#### ▶ 新型コロナウイルス感染症生活困窮者に自立支援金 4,436 万円

新型コロナの長期化に伴い、生活保護に準じる水準の困窮世帯に対して支援します。

( 単身世帯に6万円、2人世帯に8万円、3人以上の世帯に 10 万円、

対象世帯等についてはホームページや市役所窓口でご確認ください。 )

## 『 議会改革特別委員会 』の活動が終了しました

昨年7月～今年4月、議会の活性化を目的に、議会の組織機能や運営について調査検討をしてきました。その結果、新たに次の取り組みを始めています。

- ・ 予算決算常任委員会を設置(令和 2 年 8 月～) → 議会のチェック機能を強化します。
- ・ 委員会の議事録をホームページに公開(令和 3 年 3 月分～) → 市民への情報公開を促進させます。



## 『子どもの権利に関する特別委員会』が設置されました

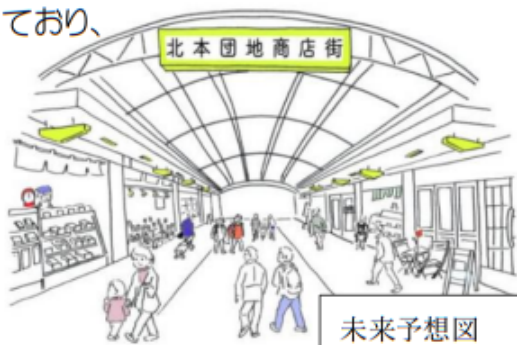
子どもも、大人と同じように、ひとりの人間として大切にされる資格(人権)があります。ですが、子どもは「自分で決め、自分で責任をとれるような大人」に向けて成長している最中であり、大人のように人権を行使することができません。その為に「子どもの権利」として区別する必要があります(ユニセフ子どもの権利条約より)。そこで市議会では、子どもの人権を尊重し、すべての子どもが幸せな生活を送ることができる社会になるよう、「子どもの権利条例」の制定を目指していきます。委員は各会派より選出された7名です。

## 市民請願 『2030年エネルギー基本計画』の改定にあたり、脱炭素、脱原発を進め、再生エネルギー電力の割合を高めることを求める意見書』の提出を求める請願

気候危機が進んでいる今、私たち人間が生み出している温室効果ガスを減らす最も有効な手段として、「再生エネルギー」の利用が注目されています。「再生エネルギー」とは、太陽光・水力・風力・地熱・バイオマスなど、自然の力で定常的・反復的に補充されるエネルギーのことです。諸外国では、既に「再生エネルギー」の導入拡大に力を入れています。この請願は、日本でも脱炭素社会に向けて、原子力・火力発電を減らしていき、「再生エネルギー」の導入を推進する政策を、強力がつ早急に進めることを求めるものです。建設経済常任委員会と本議会を共に全会一致で賛成となり、国へ意見書を提出しました。

## お知らせ 『北本団地活性化プロジェクト』が始動しました

栄地区の「北本団地」は、総戸数2000戸を超える巨大団地ですが、現在は、高齢化や少子化に伴い、中心部の商店街もシャッター街となっています。このプロジェクトでは、5者（北本市、暮らしの編集室、UR都市機構、(株)良品計画、(株)MUJIHOUSE）の連携によって、地域資源の発見や活用をすることで、北本団地の活性化に取り組みます。令和2年度には「ふるさと納税型クラウドファンディング（不特定多数の人が組織などの財源協力などを行う事）」を実施し、寄附金額200万円を集め、商店街の“住宅付き店舗”を整備し、活動拠点（ジャズ喫茶『中庭』）をつくりました。6月からオープンしています。2階の住宅部分で暮らす若い世代の人たちが、1階店舗で地域活性化のための多様な活動（レンタルキッチンを活用したカフェ等）を行います。このような活用法は、UR都市機構とMUJIHOUSE（ムジハウス）による事業としては、全国で初めての取り組みです。コロナの影響で“暮らしを楽しむ”という発想を持つ人が増えており、人気ブランド“無印良品”の業者が手掛けているのも相まって、入居者応募では、中々の人気であったようです。6/1からは、日本写真芸術専門学校の学生3名が団地に約4カ月滞在し、地域課題解決に向けた取り組みを行っています。新たな人の流れを感じます。先が楽しみです。



## 金森すみ子の一般質問

### 【 障がい者医療費の窓口払いの見直しについて 】

**問** コロナ禍において、医療機関での窓口払いを無くすことは、非接触での対応ができるだけでなく、障害のある方やその御家族の収入減への支援にもなります。更に、以前より課題となっていた、対象となる方の申請手続き負担も軽減できます。窓口払いを今こそ撤廃するべきではないですか。

**答** (市長自身からの答弁) 経費の問題はありますが、接触機会の低減による新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、また、市民サービスの向上を念頭に、現在、来年4月の導入に向け前向きに検討しています。

一時的とは言え受診の際に支払いが発生することや、医療費の申請手続きの為に毎月市役所に足を運ばなければならないことは、対象となる方にとって大きな負担でした。昨今では、障害のある方やその御家族も高齢化していて、更に負担は重くなっています。代々の市長が持ち越してきた課題へ着手した三宮市長の決断を評価したいと思います。

### 【 学校選択制の距離案件廃止による通学の安全性について 】

**問** 通学距離を理由とした学校の選択ができなくなり、生徒によっては通学距離が長くなる場合もあるとのことですが、安全面での対策はなされているのですか。

**答** 防犯上の課題が見られる通学経路を通らざるを得ない生徒については、安全面を最優先に考え、自転車通学を例外的に認め、短時間で登下校できるように配慮をしています。

この件については、自治会回覧の「宮内中だより」に記載があり、目を通すことで伝わってきました。生徒の通学の際の安全性を考えると、地域への情報の発信が不十分ではないかと感じられます。今年度より、コミュニティスクール(学校、保護者、地域で子育てをしていく仕組み)も本格的に進めようと掲げているわけですから、地域への配慮を欠かさないで欲しいと思います。

### 【 北本総合公園のインクルーシブパーク化などへの取組について 】

**問** コロナの影響もあり、公園の需要は高まっています。インクルーシブパーク(障がい児が健常児と分け隔てなく遊べるよう設計された公園)のような、様々な方が利用しやすい公園にしていけないものでしょうか。

**答** 公園施設の長寿命化計画に基づいた遊具等の更新時に、インクルーシブパークに適応した遊具の設置について整備を進めていきたいと思っています。車椅子等でも出入りが可能な出入口については、利用者からの要望を受けて、既存の生け垣を間引いて間口を確保しています。今後も多様化する利用者の視点に立ち、改善に努めていきたいと考えています。

令和4年4月からは、北本高校の一部が、騎西特別支援学校の分校になる予定です。北本総合公園では、今年10月に市政50周年のイベントも行われます。様々な方が集い利用しやすい場所にしたいと思います。

